

「生命のがん教育」を実施しました

(平成 26 年度 2 学期分)

平成 26 年度 2 学期は 31 校に出向き、「生命のがん教育」を実施しました。

◆授業形式

- (1) 医療従事者によるがんについての講義 (20 分)
- (2) がん経験者のお話 (20 分)

◆授業風景



◎小学校 (7 校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
10月10日	亀岡市立稗田野小学校	6年	公立南丹病院 副院長・外科部長 上田 祐二
10月17日	綾部市綾部小学校	6年	京都医療センター 腫瘍内科診療科長・外来科学療法センター長 安井 久晃
10月28日	与謝野町加悦小学校	6年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
11月7日	舞鶴市立池内小学校	5・6年	京都府中丹東保健所所長 常盤 和明
11月25日	福知山市立対象小学校	6年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
12月6日	福知山市立天津小学校	全校	京都第一赤十字病院 呼吸器内科 副部長 内匠 千恵子
12月19日	舞鶴市立中舞鶴小学校	6年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘

<児童の感想>

- 命の大切さやがんの怖さについて知ることができたので、これからの生活に活かそうと改めて思いました。
- 二人の先生の話聞いて、とても心に残ったのは、がんを予防するということは、一人一人が意識しなければいけないということです。
- 今日の学習をして、早く発見できれば治る可能性が高いと聞き、診断を受けることはとても大切なことがよくわかりました。
- メッセージャーさんの話を聞いて、がんになってしまってもただ怖がるだけではなく、前向きに考えることが大切だと思いました。
- 私はがんになったら助からないし手術もとてもつらいものだと思っていました。でも、この授業で手術をすれば助かることが多いし、手術も麻酔で痛くないことを知って安心しました。
- がんにならないように気をつけることや、友達や人の思いを大切にすることも大事だと改めてわかりました。「人を大切にすることは、私を輝かせること」の言葉を聞いて、自分が今生きていることに「ありがたさ」

を大切に、生きていこうと思いました。そして、それを行動できるようにがんばろうと思いました。

- ◇ 「がん」というものがどんな病気で、どういう対処をすればいいのかも今日の授業でわかりました。経験者からのお話も、命の尊さについてももう一度理解させてくれました。

◎中学校（17校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
10月14日	舞鶴市立城南中学校	3年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
12月2日	福知山市立夜久野中学校	3年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
12月2日	宇治市立西小倉中学校	3年	京都府山城北保健所長 和田 行雄
10月20日	亀岡市立育親中学校	3年	京都府健康福祉部 前 保健医療対策監 横田 昇平
10月21日	亀岡市立亀岡中学校	全校	京都府立医科大学 消化器内科 講師 内山 和彦
10月24日	綾部市立豊里中学校	全校	福知山市民病院 副診療部長・外科医長 川上 定男
10月28日	与謝野町立加悦中学校	3年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
10月29日	宮津市立宮津中学校	3年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
11月7日	舞鶴市立和田中学校	3年	京都府中丹東保健所 所長 常盤 和明
11月10日	舞鶴市立青葉中学校	3年	京都府中丹東保健所 所長 常盤 和明
11月11日	南丹市立美山中学校	3年	公立南丹病院 副院長・外科部長 上田 祐二
11月14日	城陽市立城陽中学校	3年	京都府健康福祉部健康対策課 技師 小野 奈津子
11月18日	亀岡市立南桑中学校	3年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
12月2日	舞鶴市立白糸中学校	3年	京都府立医科大学附属北部医療センター 副院長 時田 和彦
12月8日	宇治市立榎島中学校	3年	京都医療センター 腫瘍内科 診療科長・外来化学療法センター長 安井 久晃
12月9日	京都市立岡崎中学校	1年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
12月15日	舞鶴市立若浦中学校	3年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘

<生徒の感想>

- ◇ がんは見つければ、手術をしても命を失ってしまうものだと思っていました。それに遺伝的なものと思っていました。自分自身でがんにならないよう予防でできることがあると聞いて、とてもびっくりしました。
- ◇ 実際、ガンという大変な病気にかかった人の話をきいて、その人の辛さ、おどろき、苦しみについて考えることができ良かったなって思いました。
- ◇ この授業を受けて、がんは改めて怖い病気だなと思ったのと同時に、少し気をつけるだけで予防することができるんだなと思いました。
- ◇ がん経験者の方が手術を終えて初めて立ったときに、「生きていることを感じた」とおっしゃっていたが、その言葉が心に響いた。
- ◇ がんになって悲しむのは自分だけじゃなく家族であったり友人だったりもするので、まずはがん予防を今のうちからしたいと思った。

◎高等学校（7校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
8月25日	京都府立木津高校	教員向け	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
10月3日	京都府立工業高校	3年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
11月11日	京都府立峰山高校弥栄分校	3年	京都府立医科大学附属北部医療センター 副病院長 落合 登志哉
11月21日	京都府立宮津高校伊根分校	全校	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘

11月27日	京都府立菟道高校	1年	宇治徳州会病院 外科医師 小林 壽範
11月28日	立命館高校	1年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
12月16日	京都府立網野高校	2年	京都府丹後保健所 所長 高木 智久

<生徒の感想>

- ◇ 100%がんにならないという保証はなくても、先生がおっしゃっていた予防や対策を、出来るだけ心掛けたいと思います。
- ◇ メッセージャーの話を聞いて、自分ももしがんになったら耐えられるのかな、こんなに強くがんと闘えないと思いました。耳をふさぎたくなる話もありましたが、自分の将来の体の話だからこそ、しっかり聞こうと思いました。
- ◇ 1番大切なのは、検診をきちんと受けて早期発見をし、治療に前向きになることだと思いました。大人になったら1年に1回検診に行きたいと思いました。
- ◇ 日頃の行いや生活習慣をもう一度見直して、少しでもがんやその他の病気に抵抗できるようにしていきたいと思いました。もしがんになってしまった時はメッセージャーのように負けずにがんばりたいと思いました。
- ◇ 身近な人ががんになったら、よき理解者になってあげたいです。また、自分になったら、前向きに生きたいです。
- ◇ とても勉強になりました。これからの人生でこの話を忘れずに生きていきます。貴重な話をしていただき、ありがとうございました。
- ◇ 日頃の行いや生活習慣をもう一度見直して、少しでもがんやその他の病気に抵抗できるようにしていきたいと思いました。もしがんになってしまった時はメッセージャーのように負けずにがんばりたいと思いました。
- ◇ メッセージャーさんの話では、周りの人が支えになったというのが、すごく心に残りました。そういう患者さんの心のケアについても興味が湧きました。
- ◇ がんは恐ろしいことだと思ったいたが、がんになったことで、様々な出会いをして生きる意味を学べるなど少しは良いこともあるんだなと思った。
- ◇ 今、何もなく元気に生活できることに、感謝しようと思いました。 普段聞くことが出来ない話を聞けたのでよかったです。
- ◇ 自分の命の大切さを知り、1度しかない人生を自分らしく生きて行けたらいいと思います。
- ◇ 自分が今、健康に生きていることがどれほど幸せなことなのか、考えさせられる良い機会となってよかったです。
- ◇ 実際の体験を聞かせてもらったことによって、がんが恐ろしい病気だということをよく理解できたし、かからないように心掛けようという意味も、より高まった。
- ◇ 実際にがんを経験したことのある方のお話を生で聴いたのは初めてでした。5年生存率などの詳しいことは初めて知ることができました。 闘病の末に完治されて本当に良かったと思います。 当時の苦しみや心境、希望などを教えていただいて、私の今後の人生に役立つことを知れた気がします。 貴重なお話ありがとうございました。
- ◇ 本当にがんは怖いものだとわかったし、なにより、見つかったら悲しむんじゃなくて、逆に喜べというのに、すごい感動した。 もしみつかったら前向きに頑張ろうと思う。
- ◇ いつか自分もがんになるかも知れないと思い、話に興味を持ちながらしっかり聞くことができたので良かったです。
- ◇ 色々なことをすぐにあきらめずに一生懸命生きていきたいし、身近な人々と支えあっていけるようにしたいと思います。
- ◇ メッセージャーのように、生きるという強い気持ちを持つことが大切だと分かりました。
- ◇ 人を支えることができるようになりたい。 自分が支えられる立場になれば感謝も忘れずにすごしたい。

- ◇ 実際に体験された話を聞いて身近に感じ、また興味ももった。命の大切さが改めて分かりました。生きていくことのすばらしさに感謝していきたい。
- ◇ これまでのおおまかな理解が、今回の学習で自分の中で考え方が変わったと思う。今までより身近な人への身体を気遣ってほしいと思う。
- ◇ がんになっても強い気持ちで戦いたいし、親がなったら、そばにいてあげて安心できるようにサポートしようと思った。
- ◇ 私の知らない事を多く知ることができたので良かった。 また実際がんになられた方のお話はとても貴重なものでした。
- ◇ がんについて知る良い機会だった。 実体験聞く事ができ、その時の心境や、またどうやって病に向き合っていたのか聞いて、とても参考になった。
- ◇ みつかってもおめでとう」「みつからなくてもおめでとう」というフレーズは響きました。病気の仕組みについても知る事が出来た。よい機会だった。今後もこのような機会が増えればよいと思う。
- ◇ 理解深めることができた。自分の考え方が間違っていた点もあるので、しっかり整理していきたい。
- ◇ がんになったときの対処法、友達、家族の大切さを学ぶことができました。1人で生きているのではなく、誰もが支えられて生きているのだと思いました。
- ◇ がんについて身近な体験を聞かせてもらってとても意義のある時間を過ごせました。がんになったときの向かい方を自分に置き換えて考えられたので良い経験になりました。
- ◇ もしがんになってしまったときはしっかりと自分ができる限りのことをして、治っても治らなくても誰かに良い影響を与えられるような生き方をしたいと思いました。
- ◇ 実際にがんを経験された話を聞いて、改めて命の大切さに気づくことができました。病気にかかってもしっかり受け入れて克服し、必死に生きていくことの大切さを学んだ。

※担当講師の所属・役職は授業実施当時のものです。

「生命のがん教育」の実施を検討されている学校は健康対策課がん対策係までご連絡ください。

TEL：075-414-4766 電子メール：kentai@pref.kyoto.lg.jp